

# 未来への伝承

第178回

## 「戦争の記憶マップ」 —地図でたどる戦争の記憶—

終戦から77年が経過しました。戦争といってもどうもピンとこない、自分とは無関係である、と感じる方も多いのではないのでしょうか。

今回ご紹介するのは、そのような方もぜひ手にとつてご覧いただきたい、「戦争の記憶マップ」です。土浦市域とその周辺に残る海軍航空隊関係施設や史跡などを紹介するもので、戦争の記憶を伝える45の場所や関連資料を写真とともに掲載しています。



TSUCHIURA CITY MUSEUM

土浦市立博物館

### 戦争の記憶マップ

戦後70年「市民の記憶」収集事業の「現」として、土浦市域とその周辺に残る海軍航空隊関係施設や史跡を、戦争の記憶を伝える場所を写真とともに紹介しています。  
その土地に刻まれた戦争の記憶を写真とともに、土浦市域とその周辺に刻まれた戦争の記憶を伝える45の場所や関連資料を写真とともに掲載しています。

「戦争の記憶マップ」表紙 旅館土浦館全景(現在の川口一丁目)  
戦時中は東京からの疎開児童を受け入れました。

土浦市の隣の阿見町には、大正時代設立の霞ヶ浦海軍航空隊と、昭和時代に独立した土浦海軍航空隊(通称「予科練」)の基地があり、周辺には、軍関係の施設が多く存在しました。また、戦後には、軍関係の建物や敷地が、学校や公共施設に再利用されることもありました。

例えば、そのひとつに市立博物館があります。市立博物館は土浦城二の丸跡に立地しますが、かつてこの地には、陸軍憲兵分隊がありました。憲兵は明治期に創設され、軍事警察を主な任務としましたが、一般警察の任務である公安維持、さらに思想の取締にも当たるようになりました。

戦後は陸軍の解体とともに解散となり、憲兵分隊の官舎は市立幼稚園や図書館、郷土資料館として活用されました。現在の市立博物館は建て替えられ、昭和63(1988)年に開館したものです。

マップを見ると、身近な所にも戦争の記憶が刻まれていることがわかり、戦争と平和について考えるきっかけになるのではないのでしょうか。

「戦争の記憶マップ」は「土浦城東櫓」で購入できます。(B2判八つ折サイズ、両面カラー刷り、1部150円)。また、市立博物館ホームページでも閲覧できます。

※市立博物館は大規模改修工事のため、令和6年1月上旬まで休館しています。

市立博物館 ☎824・2928



#### 35 第一海軍航空廠跡

だいいちかいくんこうくうしょうあと

右羽 (陸上自衛隊  
霞ヶ浦駐屯地関東補給処)

MAP B-4

海軍航空廠は、海軍航空隊専用の工場で、第一海軍航空廠は、昭和16(1941)年にこの地に設営されました。現在の霞ヶ浦駐屯地の広報センターには展示スペースがあり、旧日本海軍時代の写真や模型等の資料も見学することができます。(要事前予約)



勤労働員されていた女学生

#### 17 青い目の人形 ・幼稚園開園の鐘

あおいめのにんぎょう・ようちえんかいいんのかね

中央1丁目(土浦市立博物館)

MAP B-3

昭和2(1927)年に友好のしるしとしてアメリカから贈られた人形です。戦中でも処分されず土浦幼稚園で保管されました。鐘は地中に埋められ、金属回収をまねがれました。市立博物館では、土浦幼稚園の資料を保管しています(常時公開はしていません)。



上図:「戦争の記憶マップ」より一部抜粋  
背景:「戦争の記憶マップ」地図面